

10. ナシ‘愛宕’の心腐れに関与する糸状菌			
[要約] ナシ‘愛宕’の心腐れは胴枯病菌以外に、 <u>フザリウム菌</u> 、 <u>アルタナリア菌</u> 、 <u>炭疽病菌</u> などによっても起こる。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0271（内線 240）

[背景・ねらい]

ナシ‘愛宕’の心腐れが胴枯病菌によって起こることはすでに明らかにした。最近、胴枯病菌によるものとは症状がやや異なる心腐れ症状がみられたので、これらに関与する病原菌の究明を行う。

[成果の概要・特徴]

- 平成 11、12 年にナシ‘愛宕’の心腐れ症状を多数調べたところ、主に以下の 3 症状に分けられた。
 - 症状 A：果肉が淡褐色～茶褐色に腐敗し、腐敗した果肉は果汁に富みゼリー状で柔らかい。
 - 症状 B：茶褐色（症状 A よりやや色調が濃い）に腐敗し、しばしばまだら状の黒変部分がみられる。症状 A より果汁が少なく軟化の程度が低い。
 - 症状 C：果心部のみに白色や灰色のカビを生じて褐変している。
- 症状 A（重症）からは胴枯病菌、フザリウム菌の分離率が高かったが、症状 B からはアルタナリア菌、炭疽病菌の分離率が高かった。症状 C からは主にアルタナリア菌、その他の未同定菌が分離された（表 1）。
- フザリウム菌、アルタナリア菌は胴枯病菌と同様に県下広範囲に‘愛宕’の心腐れ果から分離された（表 2）。
- 分離菌を‘愛宕’の成熟果に挟みこんで接種するとそれぞれに菌に特有の心腐れ症状が再現された。

以上の結果、ナシ‘愛宕’の心腐れには、胴枯病菌以外に、フザリウム菌、アルタナリア菌、炭疽病菌なども深く関与している（図 1 参照）。

[成果の活用面・留意点]

- 防除対策は、開花後から小袋掛けまでに黒星病防除剤の散布を励行する。

[具体的データ]

表1 愛宕の心腐れ症状と菌の分離状況（平成11年）

症状	供試果数	分離菌別の心腐れ果数 ^{a)}				
		胴枯れ病菌	アルタナリア菌	フザリウム菌	炭疽病菌	その他未同定菌
症状A	30	4	1	6	2	16
症状B	46	0	28	2	4	16
症状C	39	0	8	2	1	32

a) 複数の菌が分離された場合にはそれぞれにカウントした。

表2 愛宕の心腐れ果（果肉まで腐敗したもの）からの菌の分離状況(平成12年)

採集地点	供試果数	分離菌別の心腐れ果数						
		胴枯病菌	アルタナリア菌	フザリウム菌	炭疽病菌	灰色かび病菌	その他の糸状菌	糸状菌分離なし
岡山市大窪	6	3		2			1	
岡山市芳賀	61	7	1	48			4	1
岡山市佐山	11	4	3	3			1	
岡山市大多羅	27	7	5	4	1	1	8	1
岡山市上道	1	1						
岡山市西大寺	28	6	2	7	2	2	9	
岡山市清水	45	6	9	16	1	2	10	1
倉敷市玉島	7	1					6	
久米町	13	6	1	6				
金光町	2			1			1	
計	201	41	21	87	4	5	40	3



【胴枯病菌】

【フザリウム菌】

【アルタナリア菌】

図1 ‘愛宕’の心腐れ症状と関与している糸状菌

[その他]

試験研究課題・事業名：新規問題化病害虫の解明と防除対策

予算区分：県単

研究期間：平成11～12年度

関連情報等：なし